

危険でも人気の街

全国177地点の危険度
防災のプロが住む家

森友学園と財務省
YOSHIKIインタビュー

昭和63年6月10日第3種郵便物認可
2017年3月13日発行
毎月曜日発行（3月6日発売）
通巻1610号

AERA

17.3.13

No.11

定価 390円

アエラ

俳優

神木隆之介

大特集「4大都市圏の災害リスクと値上がり率」
危ないのに人気の街



photo 朝日新聞社

contents — 1

大特集

震災と不動産

危ないのに人気の街

本誌オリジナル 4大都市圏177地点の災害リスクと値上がり率

「君の名は。」で有名な「あの階段」の街も／町内会に入らない新住民／無電柱化で安全に……10

帰宅困難者が頼れる「駅」はどこか

【全国主要鉄道会社調査】JR東日本「200駅を開放」、東京メトロ「全170駅で改札外の一部を開放」……17

【プロの選択】防災専門家が住む家に学ぶ

「最短ルートで避難」が危険

安全な山側であえて渋滞を起こす／アプリで誘導……22

5分で逃げれば助かる 東日本大震災「津波避難」の教訓

5人家族が「5世帯」に 避難解除で分離が進む……27

福島の高校生が語った「いじめ」と「将来」

【就活2018】学生が企業を「逆面接」

スカウト型、新卒紹介、通年エントリー、採用担当と「友だち」になるアプリ……30

都市

識者

最先端

被災地

家族

子ども

就活

eyes³⁸⁵

内田 樹



権力は必ず腐敗する 腐敗は加速度的に進行する

学校法人森友学園の用地取得をめぐる事件は、場合によっては巨大なスケールの疑獄事件に展開する可能性がある。過去4年間にわたった安倍長期政権の下で、その体制の受益者たちがどのような「利権分配システム」を構築してきたのか、その

全容が明らかになることを私はつよく望んでいる。この事件から私たちが学ぶべきことはとりあえず一つだけだ。いいと思う。それは「権力は必ず腐敗する」ということである。この真理に例外はない。そして、腐敗はある時点（ポイント・オブ・ノーリターン）を過ぎると加速度的に進行する。これにも例外はない。権力が長期的に安定的に維持されているという「事実そのもの」が腐敗を生み出すからである。

権力が安定的に維持されていれば為政者の自己評価は高まる。高まって当然である。多くの政治家が望んで達成できなかった「二強」と称されるような長期安定政権を実現してみせたのである。野党の反対で擱座されたきた懸案の法案も次々通した。間違いなく高い自己評価に値するだけの達成である。となると

自分を褒め称える人たちが「客観的に正しい」判断力を備えており、自分をあしざまに批判する人々は原因が個人的憎悪であれイデオロギー的敵視であれ、「濁った判断」を下しているということになる。そう推論することは決して間違っていない。

だが、自己評価と外部評価が高いレベルで一致することに慣れたときから不可逆的な腐敗のプロセスが始まる。そうなる、もう親身な諫言であれ、先達の忠告であれ、彼の自己評価と食い違う言葉はどれも（嫉妬か競争心か）主観的なバイアスのかかったものに思えてくるからである。そう思うことをやめるためには例外的な自制心が必要。そして、わが首相の自制心に高い評点を与える人は彼の支持者のうちにも多くはいないだろう。

劇的な成功を遂げた政治家たちは例外なくイエスマンを周りに集め、ついにはその中で最も臆面もなく阿諛追従するものを「具眼の士」とみなすようになる。そして、手厚い褒賞でその具眼に報いようとする。そのプロセスは兩車仕掛けの悲劇のように進行する。私たちは今その終幕近くに立ち会っている。

この欄は委員さんと交互に執筆します。



contents — 2

映画	YOSHIKIと「WE ARE X」 デビューからを追ったドキュメンタリー映画が公開／「音楽には絶対の自信がある」……36
映画	マイケル・ファスベンダー「映画の力を信じている」 ……39
将棋	神木隆之介「演技の哲学」 映画「3月のライオン」に天才棋士役で主演……44
	将棋教室の子どもは「負けることで心が強くなる」 ……46
音楽	エレカシ宮本浩次が語る「仲間と歌」 ……48
映画	ベルリン国際映画祭でわかった日本映画の「岐路」 ……60
社会	元戦隊ヒーローが関わる銀座ビル売却の謎 ……61
働き方	復職ママがやっておきたい20のこと 病児保育サービス登録、パートナーの仕事確認、アレルギー相談……62
皇室	愛子さま 深刻な激やせと宮内庁発言の違和感 ……64
教育	早稲田大も導入「英語外部試験入試」に強い高校 ……65
政治	森友学園国有地取得「なぜ検察動かない」 ……66

表紙の人	神木隆之介・俳優……9
現代の肖像	ピーター・バラカン ・ブロードキャスター／松永良平……52
AERA-note	編集長敬白……68

好評連載

5	eyes内田 樹
7	浜 矩子
58	佐藤優の実践ニュース塾
59	ぐっちーさんの ここだけの話 小島慶子の 幸復のススメ!
69	オチビサン安野百葉子
75	星野源 音楽の話しよう
76	武藤嘉紀 職業、ブンデスリーガー
78	はたらく夫婦カンケイ ニッポンの課長 株式会社モリタ
80	伊藤まさこの おいしい時間をあの人へ

AERIAL

70	アエラ 読書部 苅部 直 評 「吉行淳之介 抽象の閃き」 この人のこの本 国谷裕子 服部みれいの 読書days
72	玉塚元一の キャプテンのテイクノート 福岡伸一の 生命探検 稲垣えみ子の アフロ画報
74	ジェーン・スーの 先日、お目に掛かりまして 厚切りジェイソンの 厚切りビジネス英語

フォトグラファー(表紙) 鏡川実花
アートディレクター 福島源之助
デザイナー 原 雄一/羽多野一造/内藤直理/
根本勝子/高 理子/森田 直/
永井健太郎
チャートデザイナー 枝常暢子 岡山晃矢

eyes 386 浜 矩子



ハッチワークのトランプ演説は 中身が問題

トランプ大統領が、就任後初の連邦議会向け演説を行った。結構、評判がいい。ようやく大統領らしくなった。就任演説の過激さとは様変わり。抑制が利いていた。こうした評価が世界を駆けまわっている。

何故だろうと思う。演説の全文を読んだ。動画もみた。どこが大統領らしいのだろうか。就任演説と、どこが様変わりなのだろう。アメリカの議員さんたちも、内外のメディアも、何やら集団催眠にかかったようだ。

確かに、声のトーンはおとなしめだった。だが、ひよっとすると、それは、自分らしくない言葉、計算された台本を間違えないように一生懸命話していたからではないか。単に、ミス回避すべくとつても緊張していただけではないのか。人間は、緊張しすぎるとエネルギーのレベルが下がる。かえって落ち着いていられるように見える時がある。だが、実は意気をうまく掲げられていないだけなのである。要は、集中力を高めることに失敗している。

この演説を聴くよりも読む中で、特に感じたことがある。何

やらハッチワークの親がある。「大統領っぽい」部分と「トランプっぽい」部分が交互に登場する。「大統領演説マニュアル」に忠実に従って格調高く行った部分。そればかりでは日本人がっらいから、トランプ節の炸裂をちよつとだけ許す部分。この二つの継ぎはぎと切り貼り、話が進行していく。ちぐはぐ感が強く残った。少しめまいがする。もつとも、こうして我々があの演説のトーンや語り口ばかりに関心を奪われていることにこそ、問題があるだろう。とさくさきに紛れて、なかなか怖いことが言われてもいる。

一つ目を引き、耳をさわつかせたのがVOICEなるものをつくるという宣言だった。VOICEはVictims Of Immigration Crime Engagementの頭文字だ。国土安全と保障省の傘下に「移民犯罪被害者」対応部署を設置するのだという。「移民犯罪」なるものをこのような形で特定する。こういうことでもいいのか。あたかも、移民はすなわち犯罪者集団だといわんばかりだ。いくら抑えたトーンでしゃべっても、言っていることの中身が正当化されるわけではない。

この欄は東浩紀さんと交互に執筆します。